

<陳述書（抜粋）>

私は、銃撃事件当時は教会職員として大学生のスタッフをしていました。学生の話が頻繁に聞く立場だったため、毎日のように「ニュース見た？大丈夫？」と多くのメンバーと話をしました。大丈夫だという子は少なく、あまりの衝撃で泣いており、動揺している二世が多くいました。

あるメンバーの話によると、大学の授業で一コマ全ての時間を使い、家庭連合がカルトであることを前提とした講義がなされたそうです。もしその講義を聞いて悲しい顔をしたり、泣いたりすれば、自分が家庭連合の信者であることが周囲に知られてしまう。もし誰かに知られたら今後学校に通えなくなるかもしれないと思い、必死に涙をこらえながら、九十分間、ただひたすら授業が終わるのを耐えていたと言っていました。

また、ある二世は、銃撃事件が起こる以前に、仲の良い友人にだけ自分が家庭連合であることをカミングアウトしていましたが、事件以降、「お前統一教会だったのか、騙しやがって。次会ったら殺すぞ」と脅迫の LINE が来たと言います。「もう学校行けない」と泣き叫んでいました。そんな子が一人や二人ではありません。

中高生の二世たちはさらに深刻です。思春期の多感な時期に、親にも相談しづらく、学校であったことや悩みを誰かに打ち明けることも困難な状況です。可能な限り、親や教会職員が寄り添い、話を聞こうと努力していますが、十分には行き届いていないことに不甲斐なさや申し訳なさを皆感じています。多くの現役二世が傷つき、涙しました。その姿に接しながら私も悔しくて何度も泣きました。

また、「二世の会」の問い合わせには、さらに多くの被害報告が寄せられていました。自殺した子どもの親からのメッセージは特に衝撃的で忘れられません。家庭連合信者というだけでなぜこんなに社会から迫害されないといけないのか。このままだと良くないと思い、私はこれまで何度も現役二世信者としてカメラの前で発言してきました。シンポジウムや YouTube などを通して私たちの声を発信すると、他宗教や元二世たちも声を上げてくれました。そういう方々との対話をしながら、お互いの心が解けていく感覚も味わいました。私たちと交流している多くの元二世は、「教会には戻りたいと思わないけど、今の解散にもっていく世の中の風潮はおかしいと思っていた。」と言います。もちろん、色んな事情を抱えている元信者もいることは承知していますが、そういう元信者の声もあるということを知って欲しいし、報道に取り上げて欲しいと願ってやみません。

私たちの教会は、何を根拠に解散させられるのか、教会員である私たちでさえも知らずに、非訟手続きで審議が進められているのは納得がいきません。情報を開示していただき、私たちは何が問題だとされているのか、どうしたら改善できるのか、明確に知りたいです。